

留萌教育局では、留萌管内学校授業改善だより「Accompaniment(伴走者)」を作成し、留萌管内オンライン研修Accompaniment40と一体的に、管内の教職員の皆様が常に最新の知識技能を学び続け、学校改善、授業改善に資することができるよう取組を進めてまいります。

本号においては、『令和4年度小・中学校教育課程編成の手引』を踏まえ、ICTを活用した授業改善等に向けたポイントをまとめましたのでご活用下さい。

ICT活用の目的を明確にし、教育効果を考え取組を進める

日常生活における営みを、ICTを通じて行うことが当たり前になっている現代社会において、児童生徒たちには、ICTを受け身で捉えるのではなく、手段として積極的に活用していくことが求められています。

未来の社会を見据え、児童生徒の資質・能力を育成するに当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を捉え直し、従来の取組とともにICTの新たな可能性を指導に生かし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが重要です。

ICTの活用は、各教科の知識及び技能の習得のみならず、児童生徒の思考、判断、表現や、学習状況の他の児童生徒との共有、学びの振り返りを行う際の有効な手段です。また、**情報活用能力(※下右図)**のような従来はなかなか伸ばせなかった資質・能力の育成や、他の学校・地域や海外との交流など今までできなかった学習活動の実施、家庭など学校外での学びの充実などにもICTの活用は有効です。

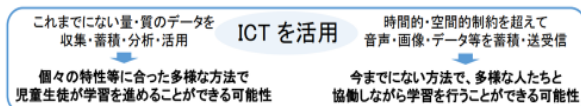
なお、ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう留意し、教育効果を考えながら有効に活用することが重要です。同時に、各学校においてICTの新たな可能性に着目し、教職員の協働による創意工夫を通してその活用を図っていくことが大切です。

①多様で大量の情報を収集、整理・分析、まとめ、表現することなどができ、**カスタマイズが容易**

②時間や空間を問わずに、音声・画像・データ等を蓄積・送受信でき、**時間的・空間的制約を超える**

③距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができるという**双方向性を有する**

ICT活用の特性・強みを生かして



個別最適な学び

協働的な学び

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

未来の社会を見据え、児童生徒の資質・能力を育成

北海道教育委員会 令和4年度小・中学校教育課程編成の手引をもとに作成

学習の基盤となる資質・能力の育成

各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、**情報活用能力**(情報モラルを含む。)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

情報活用能力の育成において、ICTの活用は有効

【**情報活用能力**】世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力

- ①学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得る力
- ②情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したりする力
- ③必要に応じて保存・共有したりといったことができる力
- ④学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作する力
- ⑤プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力

それぞれの教科等の役割を明確にしながら、教科等横断的な視点で育む

小学校学習指導要領総則解説編(p48-51)をもとに作成

参考資料『令和4年度小・中学校教育課程編成の手引』から

①トップページ



②「令和の日本型教育」の姿



③学校教育の情報化



④個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



留萌管内オンライン研修Accompaniment40について

第1回(学校力の向上に向けて)：5月26日(木)16:00~16:40 (※5/23(月)15:00まで)

参加希望の方は、管理職に相談・報告の上、申込み期日までに次のQRコードから申込みください。Zoom IDとパスコードは各回共通です。詳しくは、実施要項をご確認ください。

